

神森(男子)、美東(女子)に栄冠

ハンドボール

(浦添市民体育館)

▽準決勝
神森 33
1815
145
19
浦添

▽決勝
具志川 26
1412
158
23
港川

▽準決勝
神森 28
1117
1113
24
具志川

▽決勝
美東 23
1211
89
17
神森

▽準決勝
神森 24
1311
109
19
仲西

▽決勝
美東 18
99
44
8
港川



○：男子神森は、立ち上がりから左45度のエース・豊里友輔が、175cmの長身を生かしたシュートを連発。平仲航主将と豊里、仲石直史の3本柱を軸とした攻撃で具志川を圧倒。4点差をつけ迎えた後半も、危なげないプレーで頂点に立った。

優勝はこれで21度目。強豪校がひしめき合う浦添市の中でも、強さ際立つ神森だが、中学総体で優勝するのは6年ぶり。平仲主将は「勝ててうれしい。ほっとした」と、胸をなで下ろした。

豊里は「しっかり声を出して走れた」と振り返る傍ら「疲れが出てしまい、攻撃も単発になってしまった」と反省もあつた様子。

全国3位の底力 常連校倒し初V

「九州では自分がチームを引っ張って、さらに全国制覇を目指す」と意気込んだ。

○：「全国にリベンジし入賞を果たした女子美東がたい」（具志堅夏美主将）底力を見せた。優勝常連校。3月の全国大会で3位。神森を相手に、接戦の末



に初の頂点をもぎ取った。1月の新人大会、4月の春季選手権と同じ顔合わせとなった決勝は、序盤からファウルを誘われ不利になる展開が続いたが、GK具志堅がフライングセーブを連発させて耐え、リードを守り前半11-9。後半からは、右サイド・城間陽菜の速攻なども決まり始め、最後は4連続得点で粘る神森を突き放した。

次の九州、全国大会は、3年の具志堅らにとっては集大成となる。具志堅は「一戦一戦最後の試合だと思つて、自分たちのプレーがしたい」と大舞台を見据え、気持ちを引き締めた。

女子決勝 美東 神森 後半、右サイドからシュートを決める美東の城間陽菜(24日、浦添市民体育館(渡慶次哲三撮影))

▽準々決勝 (嘉手納陸上競技場ほか)

浦添	41	小
名護	40	コ
長嶺	10	石
石嶺	10	沖
尚		垣
		ザ
		緑